
私の恋人は総長様！？

寡陰

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私の恋人は総長様！？

【NZコード】

N2681M

【作者名】

寡陰

【あらすじ】

不細工な主人公 兎木 要が超イケメン総長とのドタバタコメディ

第一章 総長様はB専がお好き？

春の日差しが降り注ぐ屋上で「兎木 要さん 僕と付き合ってくれませんか?」と目の前の殿方は輝く笑顔でいったのです
私、兎木 要 15歳の前には、ゆるいパー・マがかかつた赤茶髪のフェロモンムンムン男 耳にはジャラジャラとピアスをつけ シヤツのボタンを三つまで開けているせいで胸元が見えている ズボンは腰パンのいかにもな不良ルック。

極めつけは悔しいくらいのイケメン!! スッと面長の輪郭 瞳は、すっと筆で引いたような切れ長の眼 眉も線を引くみたいに細い鶯鼻でポツテリ少し厚い唇の某裏のカリスマにソックリなこの男子がなぜ 私に人生初の告白なるものをしてきたのかは 体育館から話がをさかのぼります。

ガヤガヤと騒がしいここ流星学院では入学式のために体育館は新入生で、あふれかえっていました。

皆 きちんと真っ直ぐ並べられたパイプ椅子に座り 少しの不安と輝かしい高校生活に胸踊らせていくなか 私はあまりの式の長さで睡魔という悪魔に襲われ 船をコツクリコツクリ漕いでいたのである。

突然ドカ――――ンという爆音と共に扉がぶつ飛んで通り道近く

にいた私の顔ストレスを通していったのです「鬼木 要ちゃんは
どこなりかー？」

そういうながら 金髪猫口美形が壊した扉からでてきたの。

猫口男の言葉を聞いた瞬間周りにいる生徒が一斉にコソコソと喋り
だした あの人 ケルベロス? 2の猫田 恭じやね? え!
?あの Hell Cat 一番前のは総長の蔡機亮佑だし ケル
ベロSTOP 御一行がなんでここに? 遅れて猫口男よりもかなり美
形 モデル並みの身長と体形の男が現れた

どうやら遠くからなのではつきりとは確認できませんがお二人共 二年生
の先輩ということがネクタイの色で解りました

そういうえば説明するのを忘れておりましたね この学院では 学年
ごとにネクタイの色で学年が決まっていまして 一年生は赤色
二年生は紫 三年生はあおとなっています

赤茶髪の男が新入生の方をキヨロキヨロと見渡して誰か探している
ようですが偶然バチッと目と眼が合つてしましましたの どうしてか
しら なんだかこちらに近づいてきますわ 「見つけた 僕のウサ
ギ」 そう穏やかに笑つた先輩 見ていた生徒が我に返つた途端に悲
鳴があがつたんです 特に女の子から

“ なんで!! あんなブサイクが! ” “ あいつ 何したんだ? ” 不良
の頭が出て来るなんてよっぽどのことだらう “ とさつきよりも明
らかにザワザワと五月蠅くなつた体育館にヒヤリと冷たい声がまる
で針を刺すように響く

「うるさい 君達に関係ないでしょ」と先輩がいいましたら 皆
黙つてしまひました 「君に言いたいことがあるんだ 屋上までき
てくれる?」 嫌がれば振りほどけたはずなのに不思議とわたしは
その手を取つていました

彼は手を握つたら溶ろける様な笑顔を向けたけど直ぐに無表情でズ
ンズンと奥に進んでいく

壊した扉の壁に寄り掛かつて携帯をいじる猫田と呼ばれていた先輩

「用事は、すんだのー? そんじゃあ 屋上へレッツラGOGO

初めまして兎たん オレッち 猫田恭 ピチピチの16歳宜しくね

ん」

そう 自己紹介した先輩は 蔡機先輩の後に着いて屋上に足を向けてた。

で、冒頭に戻ります

「ねえ、返事はどうなの?」ずっとぼーっとしているわたくしに焦れたのか先輩はそう催促した。あたしは何を言われているのか分からず、「何処にでござりますか?」といえば、男は鳩が豆鉄砲くらつたような顔で「何処かに着いてきて欲しいんじやなくてキミ…いや要さんに恋人になつて欲しいんだ」

あまりに真剣な顔だから

からかわれてるようではなさそうです

「まだ あたし貴方様のことよく知りませんわ

「今から知つていけばいい」

「それに、私 さつき体育館で皆さんが言つていたようにかなりのブサイクですよ」そうです わたくし自分でも思うくらい不細工家族は私以外美男美女なぜか末のわたくしだけが醜いといつじ近所のおばさまたちには 養子ではと影でいわれ 近所の子供には捨て子だ捨て子だと離し立てられいじめられたものです自分でもそんなんじゃないのかと戸籍を調べたら正真正銘の娘でした

「そんなこと関係ない!!俺は要さんの容姿だけに惚れたんじゃない!!!!」

そういうて少し怒った彼の顔を見た時 心がシャボン玉みたいに弾けた気がした「解りました 先輩のことはよく知りませんがどうぞ宜しくお願ひします」 ペ「リとお辞儀して顔をあげたらいつの間にか前まで来ていた先輩に抱きしめられたらあるうことがほっぺにキスしてきたのだ 「ありがとつ 愛してる要」「…? ななななにをつけー」

私の脳のキャパシティーを軽く超しポンと音がしそうなほどあたし
は顔が真っ赤になった　ああ　ダメ
先輩の焦った声を遠く聞きながらわたくしは意識を
手放したのです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2681m/>

私の恋人は総長様！？

2010年10月17日11時36分発行